

十 合四百五拾点

百八十
百四十
百三十

同 花洞

全 合四百五拾点

貳百
百四十
百四十

同 青瓢

百五十
百五十
百五十

同 山崩

十老 合四百三拾点

二百
百四十
九十

同 花洞

十二 合四百貳拾点

百四十
百八十
百

国分 自笑

百四十
百四十
百七十

金山 青瓢

七十
百五十
貳百

全

十三 合四百拾点

百三十
百四十
百四十

阿久根 雨杏

百七十
百七十
百三十

金山 青瓢

上 (162・オ)

清書堂籬庵

青瓢印

亥神無月烏

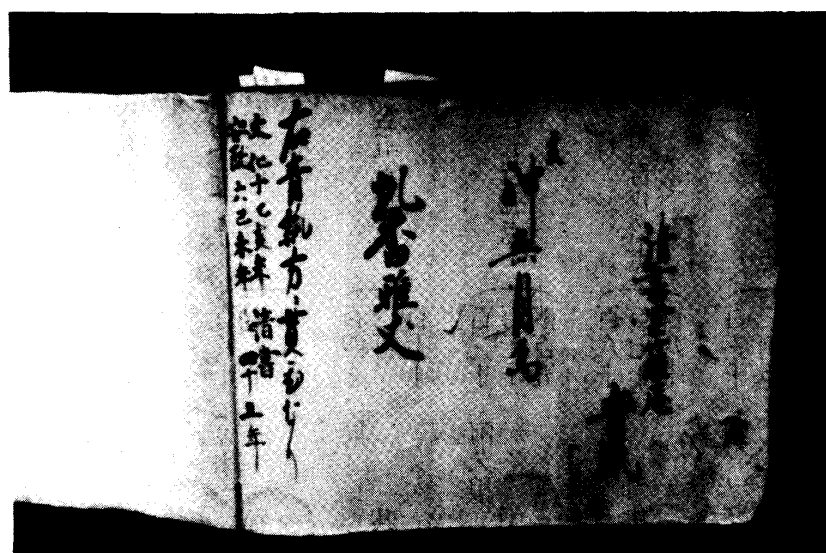
乳香雅丈

右青瓢方ニ貫置なり

文化十乙亥年清書

安政六己未年迄四十五年

(ウ)



雌雄如華押

七十二老

鷺松

全 全 全 全 清書堂 全 全 全 全 青瓢 全 全 全 全 全
(ウ) (159・オ) (ウ)



亥

菊月 烏

(ウ) (160・オ)

九 合四百六拾点 $\frac{百三十}{二百}$ 同 山嵐	八 合四百八拾点 $\frac{百八十}{百七十}$ 金山 其水	七 合五百五点 $\frac{百三十}{百七十}$ 阿久根 雨杏	六 合五百拾点 $\frac{百四十}{百七十}$ 同 其水	五 合五百三拾点 $\frac{百八十}{百七十}$ 金山 青瓢	四 合五百六拾点 $\frac{二百}{百八十}$ 踊 奇山	三 合五百七拾点 $\frac{二百}{百七十}$ 同 青瓢	貳 合五百八拾点 $\frac{一百}{百八十}$ 金山 文鳥	壹 合五百九拾点 $\frac{二百十}{百七十}$ 横川 乳香
--	--	--	--	--	--	--	---	--

LA M	乗出しの声もさへたり星月毛	全	LA V	其数に入て涼のをき合	全	E	敵を吞龍に翅や馬揃へ	金山
B'	今日取となりて形屋も関破リ	全	Q	西国の逆縁もなき春日和	金山 青蘭 (154・オ)	FA W	生レ子ハ山郭公初昇	全
E	御相図や御手の響を菊畠 ^ケ	国分 嵐巴 (152・オ)	FA T	春風に鈴付馬もはなこゝろ	全	Y	我宿の木削を蟬の抜参り	全
H	水きれの田にかミなりの幾廻り ^{カゴシマ}	杉水	FA G	花よりも腰の紅葉や土俵入	全	FA I	出船の夕日の紅や難波口	全
Y	出掛の時が霞の関角力 ^(濁マ)	全	LA M	御連枝の花を咲する大下馬所	全	H	湯治場に病ハ捨て貝拾 ^イ	全
LA V	相ほれの姿八月の鏡山	全	B	夢買てからの鏡のうらミなし	全	H	駒鳥や青野か原を鞭壱ツ	全
B'	客のあき茶屋の娘ハしら菊の	全	E	乳黒や百萬石を抱へ帶	全	JA' K	日の鏡青田に水の廻り磨	全
H	落るとも折らてやミなむ花の枝	無名 (ウ)	H	川狩や我人先に飛子共	全	CA U	七人の穂先は敵の乱焼	全
CA S	雨晴るゝ日吉祭りの山法師	金山 雲萍	Y	枯 ^タ ハと思ひの外に孫の花	全	H	若挾 ^(狭カ) 鯛今日ハ鳥目の鰭をふり	全
Y	香利の座は源平の鼻軍	全	H	下馬先や諸国飛たつ大鳥毛	全	B'	梅か香をしとふ嵐の老人旅	金山 全
H	たらちねの闇も晴着の緋の袴	全	LA O	囊中 ^(ニママ) ハ銭は有なり酒林	全	E	嫂に錦織せぬ笈の恥	金山 花洞 (157・オ)
B'	官銀を戴く法師めくら飛	金山 全	LA M	一筋の矢の目敵を鳥の海	仙奄 (155・オ)	H	御恵の一盃深き川の酒	全
FA W	酒よりも心もち寄下戸の春	不楽 (153・オ)	CA X	尻に目の附くハ二八の前後	全	LA W	勝事を千里の外に幕の内	全
E	洩さしと狩場の雨にぬれわらぢ ^(濁ママ)	全	E	見へ隠れ足跡繫く放駒	全	B'	雪打や老も若氣に濡支度	金山 全
LA Z	子ハ親の面 ^ン にましろの壬生踊	全	R	煙らせて空に相図の烽火台	全	N	かけ将某味方の勝に桂馬飛	山嵐 全
E	角立ぬ宴や隈なき月見客	全	LA Z	狩陣の古 ^ル 兵や革羽織	全	B	蛭狩り是そ幸濡の縁	全
LA V	貝鐘は耳に吞込氣の薬	全	B'	大根の虚空を渡 ^ル 雨の宮	花洞 (ウ)	E	仮寐にもから崎夜の雨しらす	全
R	角力見に腰も居らす延あかり	全	E	三年目釣りの暇も浪の上	全	B'	蜀山に還俗さする大平記	全
E	朝出とハ違ふ寺子の暇かね	全	B	勝時や甲の紐を解津風	全	LA V	道野辺の縫や花野、糸薄	全
FA I	髪的雪ふる友たちに相の宿	全	FA T	雲晴て配所の月を後に見	全	LA Z	御末まで羽叩にけり鶏の汁	金山 全
B	心なきあら駒ひけよさくら散 ^ル	全	LA V	あをかるゝ矢先ハ運の要渥	全	LA M	尾頭を捨し羊の夢の跡	金山 其水 (158・オ)

FA G	異国船長崎口に入鯨	全	LA M	苦船の服紗捌や日和風	全	E	弓の場や出立も晴な星当り	全
H	霰酒かさねて御意をふる奴	全	CA D	里落の鹿や人目にかゝる時	全	FA W	三ツの拍子揃ふ凱歌の湊出し	全
E	乗ものは跡からひろふ花の足	全	E	定日に嶋もうきたつ船おろし	全	B'	萬歳や智も才蔵か口の花	佳洲 国分 (150・オ)
E	手の内に水にせぬ火を出合	全	LA Z	茶の友にひき立らるゝ旅戻り	全	LA M	舞ふ鳶ややくら太鼓に囃るゝ	佳洲 国分 (150・オ)
H	増上ル寺ハ極楽浄土宗	金山 文二 (146・オ)	LA O	青艸の雉子に犬の鵜縄曳	全	LAP	祇蘭会や若ものどもか朱傘	全
E	風さそふ轡に鞭の相拍子	全	R	有かたひ匂ひますゝ通夜の梅	全	H	軍見て矢はぎの聲や薊入日	全
H	打よする花見の相図陳大鼓	全	LA M	乗越の茶屋に西瓜の一ツ井戸	全	H	馬士颯ふ羽叩く宿のほとゝきす	全
H	すみゝも残ルふしなき田植颯	全	B'	よみあさの古手も交ル若菜摘	全	Y	寒さらし奴コカ口の汁ル粉餅	全
Q	船颯も御氣に入江の足拍子	全	E	産声は男山なり初桜	国分 杉月 (ウ)	FA G	奉公の始めや尻のかるい沢	全
H	山吹と笑ふた夜から実入初	全	H	薊入や古郷へあしのかるい沢	全	CA U	茸狩や只見て笑ふ女同士	全
H	蒔分にむらかる伊勢の鳴鳥	其水 全	B'	聞出す敵の声や鶉聞	全	E	菖蒲さく加茂の川原の競馬	全
B'	御意の鞭うつゝのよふに競馬	全	B'	山川の言の葉つもりふちとなり	全	H	かちときや日ハ西陳にくれの旗	全
E	筑羽根の古哥もしら齒の手鞠うた	全	OL	親の雛程遠けれとうつの山	全	B'	御暇が簾から洩て小鮎取り	路水 国分 (151・オ)
FA W	背水の陳や木の葉に向ふ風	全	LA V	い(の力)にふしてとらと見ている月の弓	国分 葛龍 (149・オ)	LAP	乗り付て駒のきんたや足拍子	路水 国分 (151・オ)
LA V	月に舞花にうとふの御代の春	金山 其水 (147・オ)				LA Z	浦中は恵美須こゝろや狐踊	全
LA Z	立戻客も亭主も時鳥	全	R	向疵着初にゆつる児鎧	全	E	せらい山夜の境もあらバ社	全
E	一ノ鉾たちまち四方の鯨船	文水 全	B'	軍見て夜白はくなり白齒の矢	全	E	入魚や骨も惜まぬ網の勢子	全
Y	捨ぬ世の竹馬を繋く酒林	全	E	春駒や黒髪乱す柳蔭	全	N	能イ師には弟子も氣に乗ル馬稽古	全
E	短刀に長上下の初登城	全	H	瘦浦に肥た鯨の油つき	全	H	もの前に骨も手折ぬ児桜	全
H	鯖竿て釣は目出鯛賀の前日	全	LA V	引立ル御帰陳目出し茶白山	全	B'	積藪の晴行空や桜狩	全
LA O	夜軍に酒鉾免す寒の内	全	LA Z	御神楽や唯参詣の鳴渡り	全	LAP	菊閉チに咲揃イけり氏の花	嵐巴 全

LA P	棟上ヶの日和も立し初昇	全	自笑	全	LA Z	夏瘦も勤の年 <small>シ</small> もあきの風	全	R	青梅に乾も軽む武者鞋	全	金山
E	身に花を咲せて家内初桜	全	全	全	FA T	立帰る仰の浪や須摩千鳥	全	CA S	獵祭り角力に御鬩取あたり	全	青瓢
FA G	降誕や朝日に鶴の声高津	全	全	全	FA W	におわする文に頭痛もやミの梅	全	LA V	既に矢をはくや鯨の船軍	全	全
CA X	古戦場見に行花の跡を詰	全	全	全	LA P	立身の望も狩野・登り龍	全	CA U	藪入に枝ふり作るつとの梅	全	全
E	初陳のつば <small>（濁マデ）</small> 香バシ児桜	全	全	全	R	藪入は水仕勤の放生会	全	Q	先達の足跡既に幾なひぎ <small>（濁ママ）</small>	全	金山
Y	春駒や袖もはらはす花の雪	全	心笑	全	H	出陳や龍虎の対の床筋	全	FA W	大下馬やのつと秀 <small>ル</small> 対道具	全	青瓢
H	心能 <small>キ</small> 旗のなひきや鎧艸	全	全	全	B	義を先に立て諫の言落し	全	LA V	海原や子心にさく桜鯛	全	全
FA I	鏈梅や霜に臆せぬ供揃	全	心笑	全	Y	乗掛も春めく空や伊勢の空	全	Y	朝酒や園部も寒さ忘雪	全	全
LA Z	仇討て戻 <small>ル</small> 夜明の星兜	全	全	全	FA W	御暇も菜種子盛や御所の蝶	全	LA O	太夫に琴弾せて我は年忘	全	全
E	先かけや相図をきくの咲揃	全	全	全	E	俣ならぬ身をば君慮の水車 <small>（濁ママ）</small>	全	B	ませ竹に結れて腰の翁艸	全	全
LA O	帰りなんいざや身請の月迎	全	全	全	LA O	敵を追ふ時は味方もかへり見す	全	R	年内 <small>（深カ）</small> の含もひらく花角力	全	其水
LA V	児乗せて月の出はなや生駒山	全	全	全	H	三味の駒に気は打乗て桜狩	全	CA X	枕焼の匂ひをはなと夕涼	全	全
H	白犬の走る丸雪やうつら狩	全	全	全	E	さつはりと年貢仕舞て戻道	全	E	青艸の糸かけ乱す牧の駒	全	全
FA T	若殿を守る武蔵の露はらい	全	雲雀	全	LA P	春の野へけふハ御側を放 <small>レ</small> 駒	全	FA T	東海の帰帆になかれ寄鯨	全	全
FA W	振 <small>（濁マデ）</small> さひにうつむく幡や一備	全	全	全	Y	青梅のうそを喰 <small>セ</small> て孫か坂	全	CA X	茸狩の芳に酒の足堅 <small>メ</small>	全	金山
Y	一ッ井の底意扱こふ月見客	全	全	全	E	我と又見てハ居られす初あられ	全	E	口笛の相図夜打の時の声	全	其水
H	若草にいな、き渡 <small>ル</small> 野辺の駒	全	全	全	B	井の中の蛙も春ハ井手の里	全	H	鹿はたつ笛の遠音や紅葉狩	全	全
E	雲水は釈氏の流江湖寺	全	雲雀	全	CA S	百萬の只や梅酢に艶を揚	全	H	川出しに雨のちからをゑちこ獅子鳥鵲	全	全
H	藪入や今日は古郷の松近き	全	嵐巴	全	FA I	初雪やけふ九重の簾を卷	全	FA I	やつれたる留木に花の国薫 <small>ル</small>	全	全
H	村中ハ網に洩さぬ鶉かり	全	全	全	FA G	桃さくら乗せて徐福が花見船 <small>（濁ママ）</small>	全	LA V	冷酒のこぶし固や稽古弓	全	全
E	しころまで作事も出来て御召初	全	自笑	全	H	賀の床に幾羽重や鶴の孫	全	FA T	さむそらに琉球人の初深雪	全	全

FA I	LA Z	H	Y	FA G	B	E	R	H	CA U	FA W	FA T	Y	B	FA I	E	R	N	Y	E	Q
部屋中の勧進帳や在原記	一桶は明て嬉しき金子鮓	十分に馬のかけ引九折	鶴の間に巢込ル約や宵の暗	築守も止てとまらぬ鯉の道	遠乗や馬具磨揚し鎌倉路	先陣と皆名乗来ル花軍	晴レ富士を鞍の前輪や馬入川	御狺に母衣の吹雪や若の皮膚	稲村か干て鎌倉に星兜	再勤に引添までも嘶て	賊船の不審も晴し旗合	幾袖も匂ふ梅津の宮詣	野羽織の袖も振行鷹の鈴	髪切りし船も櫓声の引油	灌佛や目出度折の寺詣	日々に客の露うく只よ花	花聲とならん其間は三輪のクセ	紫の扁緒は鶴から知行鷹	部屋中が梅干をかむ笑ひ本	遠鹿を峯の紅葉と射て落
キン山 青瓢 (135・オ)	全	全	全	全	全	全	全	全	全	キン山 青瓢 (134・オ)	全	全	全	全	全	全	全	全	全	松月 キンサン
R	FA W	LA V	Y	CA X	CA D	FA W	E	E	CA S	R	OL	LA P	B	B'	B'	LA Z	E	Q	FA G	LA M
分登ル駒かたけ／＼春遊び	結納を祝ひ上羽の蝶つかい	花の色いたつらならぬ実植菊	馬牽に酒吞せよと声の鞭	還御には寐する仕丁もおきの国	秋風や艸木に飢ぬ人心	朝風に散るや湊の波のはな	仲たちの風構して花嫩入	勝時や甲トの星も代の光り	拝領の太刀風に散ル木の葉武者	朝面を雪にきよめの手習子	相場積きた前米の佐々木丸	雨風をもの、数とも田植時	花の上漕々象潟の船遊散	一陳に三を乱せし勝軍	投網に牽牛ハ曲輪の鶴縄曳	三味線の乗におくれぬ駒太夫	馬に鈴鬼に鉄棒辻おとり	仲人かきたの宵から梅の風	涌出しの水に笑只のかきつはた	思ふ図に乗する手綱の賭将某
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	古月 (137・オ)					古月 (137・オ)					文志 (136・オ)									
H	LA V	E	CA D	H	LA Z	FA G	N	LA O	LA P	CA U	N	JA K	R	Y	B	LA V	CA X	B	CA S	FA T
吉野路や汁も鱈も桜鯛	雨乞や竹ハ植ねど蓑と笠	瘦浦も肥ルやよいの花鱈	子に引れ後の、その紅葉狩	野の裾に糸引はへし鞍の上	咽へ清水灑く頓智や梅林	御帰陳や藪も野原も轡虫	ない筈よ覚悟の外に初昇	はね馬に鞭よ助兵衛に紙烏帽子	時雨した夜から色つく立田姫	朝夕の稽古色つく若楓	暮る、日を錦に包高雄山	明日のはな衣掛山の襟廻り	墨筆のしゆら与天の川遊	水莖に明日の音問ふ瀧さくら	紅梅の眉に人目の玉簾	完尔と夕日の紅や紅葉かり	獅子の威をかる石橋の伝受能	萬作にむらかる出穂の秋す、め	目録の門に鰭ふる鯢肴	北口の御種子をしむるいわた帯
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
		国分 清水 (139・オ)					嵐巴 (138・オ)					国分 雅松 (138・オ)				国分 雅松				

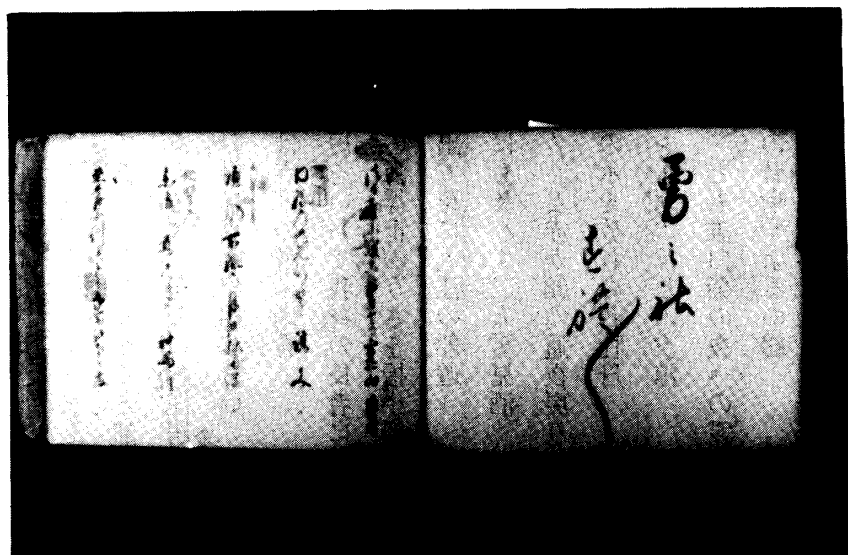
LA V	嘸な朝桜の往来は今大路	全	FA G	鷹匠に恐れぬ陸奥の紋所	全	R	乗掛の異風りんく轡音	松山 存外
B	鹿狩の千人烈や八王子 (濁ママ)	全	LA Z	産親もこふなろふとハ簾の内	全	B'	命にも替ぬ勝負の買ト買	全
CA U	子共等が破魔矢に遊ぶ御弓丁 (濁ママ)	全	B	先駈に直も高綱の近江かぶ (濁ママ)	全	C'	夜の旅一足行ぬ向イ月	山之口 月林 (125・オ)
E	御乳か背も共に若木の桜狩	全	H	亀の子を養ふ親の米守り	栗野 文角 (123・オ)	LA O	恋したふ野分に鳴や紅葉鳥	月林
N	切紙を医者から附し湯治馬	金山 青瓢 (121・オ)	E	三千の化粧の花や初さくら	栗野 文角 (123・オ)	B'	諸ともに今ハ風呂屋の五ツ前	全
CA U	飛て来ル鳩ハ味方の旗印	全	LA Z	羽音までよし原雀盆踊	全	C'	村雨に音たつ森の都鳥	全
FA T	明日のはな宵の詠や星月夜	横川 乳香	LA V	網孕む其浦中の乳の黒ミ	全	A	波たつや廿ヲ前後吉野山 文字不足	池鯉 全
LA M	馬の足から立役に乗上り	全	B'	明樽もしらす鼈肩のなけ角力	全	Y	真盛あら野、駒の花見烈 (ママ)	全
FA G	頼母しや乳くさい口て敵の名	全	FA W	琴の駒放座敷の同士狂イ	全	B'	華を見て人波立や鼈肩角力	全
JA HK	糸脉を取つく軒や蜘蛛の縁	卷頭 全	H	川狩りハハッ後の昼よ渚を見す	全	H	舞扇子要をさすや神の守護	一遊
CA X	旅前の炙や三里に居目貫	二番勝 金山 文鳥	E	焦れおふ只の紅葉や初時雨	全	C'	かる業の筆ハはたんの蝶の舞	全
FA W	師の跡を継目放れぬ色衣	全	H	半日の暇千歳屋の雪を消	全	C'	手をふりて奴の尻は寒さらし	全
LA M	あの山に雲かかゝると雨蛙	全	H	さ、かにの糸やしらせの身請駕籠	山田 如柳 (124・オ)	B'	正直の花やうち出の浜屋敷	高城 如流 (126・オ)
LA P	峯へ雲かゝる恵の小町艸	全	H	智入や鈴音若き春の駒	山田 如柳 (124・オ)	FA W	病あかり君か若菜に誘われて	高城 如流
E	湯加減に肝の切たる左鍛治	金山 青瓢 (122・オ)	H	遠ふ乗や我気も鞭と成にけり	全	CA U	草臥も桜に散し繫キ駒	全
B'	首途よし首ねち切て菊の酒	全	LA V	四ツ五器は揃わて桜の旅硯	半扇 全	B'	踊かと思はれは角ふる蝸牛	全
JA K	萬歳に初音合する子鶯	全	B'	野さらしを心に掛る頭陀の旅	全	H	ないた程笑ふて出ル鶴の声	全
LA V	四天王勅ていくの、大江山	全	FA I	雪の夜も笠島さして濡の道	全	E	娑婆の荷を桜につなく三味の駒	全
Y	旅枕夢啼破ル百舌鳥の声	全	H	駒下駄の鞭はやさしき梅の花	全	B'	嫩入樋見れば闇夜が思わる、 (ママ、慥)(濁ママ)	全
R	猛気を銅雀台で囀られ	全	H	猿引よ桜よと奥の女共	全	Q	鈴音を今やと松の廊下口	全

CA X	E	LA P	FA I	Y	JA' BK	FA I	CA U	LA O	H	LA M	E	CA D	FA G	E	R	JA' K	Q	FA T	LA P	H	
帆を上て風根を誉ル 船子共	駒下駄に鞭打添し露の萩	子共らが勝時諷ふ鶏合	村分の秩父殿さへ賭角力	(濁マテ)	青梅の嘶は知恵の水走り	西焼ハ花の狼煙や東山	城跡や兵共を絵説竿	連城の玉や夜光の戻り橋	牧狩や鹿追ふものハ山を見す	冬枯の浦に蠢く寄り鯨	凱歌して帰朝の船に山か見得	勝相撲声張弓の高矢倉	御矢先の鹿ハ峯より転ふ音	船玉の光に娑婆の山近し	田の神の日笠ハ雨とふり替り	甘棠の雫に茂ル 四ツの民	深田にもぬかりハせしな鶴の鷹	御召ぞと舍人ハ馬の先に駢	豊年の肩持毛見の戻り駕籠	汐千狩蛤蹈の村雀	嫁入は明日と心の関ヶ原
杉月 (ウ)	無名	全	全	カコシマ	雨杏	全 (116・オ)	雨杏	全	全	全 (ウ)	春湖	全	全	梅子	全 (115・オ)	全	梅子	全	全	柳笙 (ウ)	アクネ
R	E	CA U	FA G	FA W	CA X	FA T	FA I	CA D	CA S	CA S	N	LA Z	LA M	Q	JA' K	FA T	CA S	E	LA M	LA M	
三千の牡丹に獅子の始皇帝	酒代に馬士ハ伊勢路を神心	星合の花や夜明の寺子共	狩立やまた山道ハ夜深キに	墨の雲書消す明や花の文	年もまた若菜てハあり雪の沢	月見船しかも今宵ハ更もせず	耳なしの里で聞出す敵の名	婚礼のかんはん祝ふ子餅筋	恋風の野分比なり十八九	織品の車か、りや越後布	川狩りや児ハ鱸の又太郎	竹馬にほこるや孫の孟之反	足柄を越て飛脚の手柄山	くせ馬をくせなき馬場て乗すまし	簾もる、伽羅ハ相図の女衛士	船玉の□長閑伊勢の海	曾良見れば翁姿に更衣	かき廻る駒も花野を十文字	鯉汁に酒ハ茶碗の重焼	アクネ	
青瓢 (ウ)	全	全	其水	金山 青瓢 (118・オ)	全 (118・オ)	全	全	全	青瓢	全 (ウ)	全	花洞	全	金山 青瓢	全 (117・オ)	全	其水	桃林	全	全	
LA M	CA U	CA D	LA O	FA I	FA G	CA S	E	LA P	LA V	Y	JA' K	FA I	FA G	E	FA T	Y	LA M	LA Z	LA P	FA I	
御狩野や清めの雨も晴支度	いさ行ん芳野は人の花曇	梅か香を風か昇来る嫁入加籠	一はねのヒて病をすくいなけ	花聲の塵り毛に雪のさしもくさ	雪折に下女ハ湯浴のかち貝足	殿風に吹れて袖の浦遊	千代鶴の齡ひを腰に花の旅	労たる兵を揚句の梅林シ	内縁を糸て結ぶの嫁入槌	誘われて老も波たつ和哥の浦	籠抜て古巢に返る吉野駒	甲トの緒しめて帰帆のから錦	御流れを汲川水の疵意なし	初孫の只見るたひに二度童	身あかりの干損小雨のふる名染	打曇ル 日笠や繰の小鷹狩	出陣の気もたけなわの轡虫	墨色もますく 児の日々花	玉の御子見かき立たる御抱守	鍵梅を生すましたり鎧初	
全	全 (ウ)	全	全	全	金山 青瓢 (120・オ)	全	全	全	全	青木	全 (ウ)	花洞	全	全	金山 青瓢 (119・オ)	全	全	全	全	全	

B'	金毛の威風はけしき牡丹山	全	E	弦掛ぬ斗矢橋の弓張帆	全	LA M	わらひ山つるも囀るほと、きす	全	蘭雨
LA Z	さわき立蜘蛛切丸のあかつるき	全	H	紅葉かさけふハ時雨の縫掛り	全(ウ)	B'	紅葉の盛々ふくむ夕時雨	全	松木(ウ)
Y	夜軍のなけ明松や蜩原	全(ウ)	B	見古さぬ世々の契りや袂百合	全	B'	冬袖をふり捨もせん春の雪	全	
FA T	玉の鞭馬に鞍よと花さそふ	全	LA M	夕風に五条の橋の切西瓜	全	CA X	勝ときハ味方か京の関角力	四番勝	奇山
E	馬の尻尾かけについて茶屋遊	全	E	幾秋や齡を浸す菊の酒	全	LA O	敵打身の鎗竿や姉妹	全	
FA W	下戸つれの人かましくも卅日そば	全	JA K	光陰の矢庭に直ル弓の癖	全	B'	春駒ハ鞭打立る大鞍三味	全	
H	夕暮の御用は明日の麻袴	全	FA G	掛ル雲渚の方や浪の月	全(111・オ)	C'	此度ハ麻も日に出る和哥の勝	全(113・オ)	
B	賤の女ハ草摺ならて大根引	全	CA S	初鯉時鳥から売ちらし	全	H	鎧着て義を持花の児桜	全	盛木
E	在京をことふり熨斗に下り蜘蛛	全	Y	春日和たちまち花の茸合	全	B'	大星の出ルハ師走十四日	全	
Y	親の敵しはしと声をかけ将棊	全	FA W	稲のとの惣冠の時津風	全	E	真先に踊兵士や歌之助	全	
FA I	笛の音に聞耳立る橋弁慶	全	R	衣手の露や嘉例の臥穗時	全	H	眞色の見えぬ士卒や花心	全	
N	見物はからしの様に立役者	全	FA G	日表を急ぐ鞍馬の児桜	全(ウ)	B'	鶴の鳴時か忍の郭公	全	頭雪(ウ)
CA D	引汐に敵を追風の船軍	全(ウ)	H	なつて行鈴鹿やましとくれのかね	全	E	文のやミ四十七字の蜩狩	全	
LA V	配膳にかゝりて月の向ふ詰	其水		宮之城	軒梅	LA Z	月頭豹の子渡瀬を早ミ	全	
LA T	馬子諷や同じ堅田に帰ル	全	LA P	夕立のふりくる鞭や遠馬乗	全	H	千代渡ルかね導鶴のはし	全	
FA W	凱陣に女房ハ襟も繕わす	全	H	地つきども突や松尾の神力	全	B'	目に余る網に鰯の上り店	全	嵐好
Q	櫛箱の内やゆかりの品定	全	LA M	夕煙たつきになりて山子共	全	LA P	打寄ハ大鞍つ、ミの桜時	全	嵐好
H	十五夜は独にあらず綱の列卒	全	E	加茂川の流れよどまぬ競馬	全	B'	春駒のはこるや土の乱髪	全	嵐好
Q	咲ハ散ル汐干に納屋の桜鯛	全	E	取かひの鷹は拳の放涯	全	LA V	縁の綱引手襖の言号	全	
CA U	禁を破らぬ留主の帰り花	全	CA U	御出馬のけふの御觸に病ミ上り	全	FA W	我山の七人口や竹林	全	
FA W	直針に余念渚の施行餌	全	N	なにわつに咲や此花御迂宮	全	B'	雪の肌解て日和の丸髯	全	

LA Z	呼掛ル声の碇や湊口	全	H	師の門に昔を昔句兄弟 <small>語ル</small>	全
LA O	笠松の柄洩咎なき時雨同士	全	LA P	燈台は花の継穂や桃李蘭 <small>ヒ</small>	全
R	住替ル徐福か娑婆の瓢酒	全	CA S	防州といふてハ笑ふどもり同志 <small>(濁マ)</small>	全
LA D	陸奥もかたり明せし長月夜	全	C'	蛸すきの昔恋しき齒なし同志	全
H	裏きくや嬉し泪の袖の露	全	B'	笑ふ家ハ他人の目にも浦山し	全
E	誘われてまつに焦る、夕涼	全	E	兀天窓光りをくばる箔屋同志 <small>(濁マ)</small>	全
LA O	水形に幾羽重やおしの床	全	H	此あたり皆十徳の茶にきせり	全
CA U	花の夕部月のあしたに帰ル友	全	N	今植た竹に毎の行々子	全
JA' K	提髪や駕た取手も縛なし <small>モツレ</small>	全	Y	一盃しや余り尾もなし兎汁	全
E	平家蟹斗源氏に肱を張	全	LA M	ふつと摘子に笑只して翁艸	全
H	茶舟にも逆櫓ハなしの山屋敷	全	H	親も子も行儀正しき洗 <small>イ</small> 鯉	全
R	紅葉せぬ時は上戸の秋しらす	全	LA V	風なりに戦くや家の花す、き	全
CA D	春秋のあらそひもなし夏の月	全			
Q	片袖はそなたも同じ秋の雨	全			
B	燈火を消て世界のくらからす	全			
LA P	野屋敷に蓬の客や菖蒲池	全			
B'	梅か香に風根のしる、通夜の暗	全			
CA X	七尺を去程近し手習子	全			
Y	桃灯 <small>(桃)</small> の弓を流せし四条川	全			
H	濡か、る露の雫や玉椿	全			
H	礒寺によるへの客や手習子	全			

E	順風に所緑の月を松浦濁	全
R	参詣の道を清めの神馬の汗	全
LA O	至孝に引れて御所を下り藤	全
N	せらい山各々欲の瀬を早ミ	全
FA I	重荷肩ふ馬に野沢の水の音	全



FA W	傾城か夜八千代も一夜のさゝれ石	国分	佳州
LA M	文台の友や蘭生の村雀	全	
E	師壇ともなる親王の門徒寺	全	
H	透腹に舟饅頭の忍ヒ喰イ	全	
C'	衣々の提重ひらく梅やしき	全	(ウ)
Y	桃の日や手も美しき雛飴リ	全	
LA P	七年の留主や操の比翼鳥	全	
B'	金花山煙の縫ひしたばこ入	全	
FA G	かし本ンや貴賤法師も同し料	全	
H	相井戸や心も澄ル隣同士	全	
LA O	暗かりに鬼を繫し娘しふと	国分	路水
CA U	一ツ有ルものを二ツに笑ふ貞	全	(98・オ)
LA P	行末の流れよどまぬ妹背川	全	
FA W	相嫁の木地を互にぬり隠し	全	
B'	喰する時味ひを同ふし	全	(ウ)
LA P	月花も互せんなり碁打同士	全	
H	取嫁は姉が小路の達者にて	全	
B'	他流さへ業も濁さす水の流	全	嵐巴
LA O	言ふ事もなきさにひらふ月日貝	全	
B'	学寮ハ共に心の松つくり	全	(99・オ)
E	捨子さへさせす乳を遣る弟娘	金山	不楽
H	ものいわで湯戸の姿に若盛	全	
LA O	傾城の間ハよし原の五郎四郎	全	
LA P	幾としの月になれそふ萩薄	全	
LA O	花角力子共が肱を春の風	全	(ウ)
Y	引結ふ弓矢は家の聲舅	全	
F	酔の味はをなしゆかりの色衣	全	
Hレ	風呂の時宜水になる程旅勞れ	全	
H	汐蹈の詫を霜夜の友千鳥	全	
LA O	長生の家は表にうらみせず	金山	青蘭
Q	口切の友は古実の味しらす	全	(100・オ)
H	俄雨恩に着せさる笠城松	全	
FA W	おなし氣に鳴戸渡や留主の汐	全	
B'	大津繪の手本奴の茶椀酒	全	
FA T	七夕の夜は恋哥にて明鳥	全	(ウ)
H	汐蹈の詫を霜夜の友千鳥	全	
B'	先繰の旅は正しき車井戸	全	
C'	角もなき後段つゝきの茶椀酒	全	
E	手枕に昼さへ夢の川支	全	
E	口切の友にひかるゝ新茶時	金山	仙庵
H	月落て夢はものかは夜半の鐘	全	(101・オ)
H	牛と見る寺子や留主の角直	全	
B'	風呂の時宜生なからの丸裸	全	
C'	茶やの塵涼戻りの箒客	全	
R	腹心を断や木曾路の猿の声	全	
CA X	境木や互に苔のむつましく	全	
LA P	取落す湯を水にしておく小性	全	
E	姑メのあざミを娘が生すまし	全	
LA M	手鞆てしらべ合たりおくと部屋	全	
Y	世のあミを洩て花藻に鮪住居	金山	青瓢
N	小舅の針に真綿の相しらい	全	(102・オ)
LA M	藤棚は寺客の酔ふ蛸肴	全	
H	人の短をいわて我身の長者にて	全	
E	なきの海浮世のうさを捨小船	全	
LA V	月に出て花に入江の船遊ヒ	全	
LA Z	毒見にも及ハす二人雪見酒	全	
B'	ほのくゝと赤か顔の通夜戻り	全	
CA U	方円の水を放れぬ若牡丹	全	
FA I	弓腰を矢矧のはしの夕涼	全	
LA P	濡るゝとも誰白菊の夜の露	金山	花洞
LA O	唐崎の昔噺やよるの鶴	全	(103・オ)
E	煙艸盆出した斗の碁打客	全	

FA W	持はこふ酢もこんにやくも恵美須講	全	(91・オ)	H	野泊の夢引起す艸枕	全	H	薄雪に解たる縁の初さくら	全	金山	(95・オ)
E	太夫風に吹れて娑婆のうきしらす	全	(91・オ)	E	感応のはやし涼しき夏祭	全	B'	十徳の折目正しき左道部屋	全	其三	
	キン山	青瓢		R	芭蕉忌や濡た自饅の初時雨	文二	B'	一人ツ、二見に行脚三ツ巴	全	茶道か	
LA V	足弱の友何迄も待乳山	全		Q	元結の霜を欺く諸白毛	全	H	高名を七本鍵の御感状	全		
LA O	突合ふハ唯角文字の会斗	全		LA V	引移ル嘶か秘事の種子ヶ嶋	全	B'	望月の駒に悟るや法の友	全		
H	月雪に不断あかしの友千鳥	全		E	席通す鳥のそら音や順の颯	全	LA O	靡キつ、柳の庭の稽古鞠	全	国分	(97・ウ)
B'	家は皆いけなき月や萩薄	全	(ウ)	B'	一むかし放座敷に墨すりて	全	H	同穴の友や垢なき皮羽織	全	杉月	
H	あすハ立今宵そ旅の枕垢	其水		暑ひともしら浪よする滝の月	全	B'	乳兄弟伽羅は日本のか、するか	全			
LA P	本庄にかくやいろはの惣揚字	全		B'	知恵の弓挽寄ル里の千手講	全	E	一ツ家に遊女も寐たり有馬木屋	全	其水	
B'	命には怪我なく殺す目の刃	全		C'	麦飯の荷を積客の船ゆるき	全	LA Z	障子さへ明れば月のさわりなく	全	国分	(96・オ)
LA M	なり角の八方聞や御側詰	全		LA Z	狩木屋の夜着とも柴の火八人	全	Y	好の道何れも和歌の浦伝イ	全	其水	
B'	かけらるゝ氣も張弓の風	全	(92・オ)	B	一日ハ二心も持す年わすれ	其水	B'	雪の森ふところ探ル明からず	全		
B'	満かくす泪の汐や須廣の御所	其水		H	車座の二十四将やしらせ米	全	B'	氣まゝ同志あるをかきりの酒肴	全		
FA G	嶋守と成経いかに秋の暮	全		FA I	聞分ル琴と耳との互イ先	文水	H	別のこと言ふ人もなし花の会	全		
LA P	柚木屋に聞耳もかな時鳥	鳥鵲		LA O	こきませて柳さくらの里祈念	全	LA V	吉原にあしの穂を摘母もなく	全	自笑	(97・ウ)
H	影坊シを手本に頼ム鳥羽繪書	全		LA Z	とりあくる髪ハ齡ひの雪丸け	全	CA X	忘れすに不継桜の互イ咲	全		
E	運命のふしきや鳩の大菩薩	全	(ウ)	B'	故郷といはねハならのけふの夢	全	LA V	二見渴言葉の角ハ身なし貝	全		
B'	車押坂の麓や手習子	全		C'	御意の打乗駒の雪さらし	全	E	日も欠す姉か小路の産月夜	全		
E	竿たけの日を弄ぶ小鮎釣	全		C'	月待夜食ハ例の通り客	全	CA D	節有ハ只列節の颯はかり	全		
Y	目に汗の入もしら木の弓勝負	全		LA M	手たゝひて虎溪の橋の三ツ巴	全	E	夜や永き姑に不時の孝煙り	全	佳州	(97・オ)

LA M	紅猪口ハ花と花との色くらべ	(濁ママ)	全	Y	相咲や香を遣り梅の簾隣	全	CA X	其後ハ源平桃の花の縁	全
CA U	石を焚国ハ樵夫の諷しらす	(濁ママ)	全	H	主客も只しらくの互イ咲	心笑	CA S	吞バ猶ひれふる鯛や恵美須講	全
CA S	片そきの千木ハあれども伊勢の神	(濁ママ)	全	LA P	幾春の縁もあり馬の湯屋の友	全	LA O	曇りなき嘶に交し月今宵	全
FA W	相井戸の水や隣に筧の火	国分 雅松	(85・オ)	LA V	卯の花や今年の宿も咲揃イ	心笑	R	参宮の同行講や他所の縁	全
Q	蓮池や君子の影の見へ隠レ	全	R	紅葉見や皆打込ミの柴の庵	全	FA W	相傘や片袖つゝハ濡の道	全	
CA U	苗道の草も根もなき美濃近江	全	Y	交りのふしなき竹や雀髪	全	H	山科や雨夜も揃ふ星の友	全	
JA K	思ふこと皆色に出て散ル紅葉	全	FA G	友達を同じ巢にして鶴か岡	全	E	意趣のなき程酒の座の敵味方	全	
FA I	猫にしておくのふすまの只も立	全	B	月の問ふ風雅の庵や和哥の友	全	LA M	疑ひも格子も立す浦隣	全	
LA Z	針ハ穂に出す園道の糸薄	嵐巴	Y	幾秋を敷広メたる花筵	全	E	泥香なき蓮の池の水と魚	全	
CA S	船遊山角有友ハ牛に乗せ	全	H	一流を汲こふさゝや水の味	雲雀	E	畔讓ル風雅や残ル早苗歌	白雪	
LA P	青梅を煮て英雄の論もなし	全	E	紅葉賀や面も紅に散もせず	全	H	樽までも共ニ霞の相ふすま	全	
LA M	ほろ酔や二見か浦の友千鳥	全	H	学寮に年を重る諸国同士	全	H	一瓢をせめて流れにぞゝひても	全	
E	なれそめし香ハやさしさがりんじ梅	(濁ママ)	全	R	媒を聲も舅もゆかり同士	全	H	神のとも云わはいわしの網の頃	白雲
		(濁ママ)	全	N	吞同士ハ身の有長をなんこたし	雲雀	B'	川狩や鮒ハ逃行鮎生酢	全
		(86・オ)		LA M	筆髪の心も清き硯水	嵐巴	Y	押掛に塩よき比や鮓の客	全
LA P	交りの裏表なき若楓	国分 清水		H	湯治木や互にあかのなき心地	全	LA Z	温泉の旅やとちらに垢のあらば社	全
Y	利キに來ル数寄屋の友や伽羅の音	全	CA D	桜蘭に義ハ結ねと句兄弟	自笑	E	相始メの間や荷造のひよく御座	全	
CA U	学寮に後れハ咲し児桜	全	FA T	碁に惚て通ふ目遣りも互先シ	全	E	月雪も吞んて桜の友燕	全	
JA K	片たきりなき竹林の七竈	自笑	JA RK	火燧から二人余るや六哥仏	全	LA M	居并ひし花や紅葉の賀のもふけ	全	
CA X	我友の烈も乱さす鴈の汁	全	E	雪の夜といわで忍ふの乱レ髪	全	H	廻り座の車掛や閑ヶ原	全	
E	御簾の花の品を定ル三ツの蝶	全	Q	老人てハ茶てさへ吞す隣同士	蘭志	LA V	巢はなれの蜂や人屋の親子艸	全	
LA M	鹿をさして馬と言へき蜂も居す	全							

国分

(89・オ)

(90・オ)

鹿野屋

(88・オ)

鹿野屋

(87・オ)

鹿野屋

(86・オ)

鹿野屋

(85・オ)

鹿野屋

(84・オ)

鹿野屋

(83・オ)

鹿野屋

(82・オ)

鹿野屋

(81・オ)

鹿野屋

(80・オ)

LA M	FA W	LA O	LA Z	E	N	LA V	B'	E	H	H	H	Y	E	FA W	LA V	Y	CA X	E	H	CA U
梅桜枝さわりなきおくと部屋	稽古場の同気淀ます水の流	寺土産隣の子追腹佛事	夜酒盛松尾の神の末社達	親方の目玉を磨く手代髻	笠や火縄友遠方に花の旅	野遊 <small>(濁ママ)</small> は麻も蓬も摘ませて	聖民の種子や魯国の人 <small>(濁ママ)</small> の苗	見渡 <small>(濁ママ)</small> ば一目千両梅屋敷	交りハ互に胸の鏡磨 <small>キ</small>	引汐の跡に満来ル貝拾ひ	書の弟子を集て師匠曰	妹お <small>(濁ママ)</small> は姉か小路に嫁入して	善尽し美をつくし野、花見烈 <small>(ママ)</small>	境垣互にこゝろ打とけて	おくと妾隔なし地の花見重	継母とハ見へす親子の笑 <small>イ</small> 只	物狂 <small>イ</small> 済て正氣に成樂屋 <small>御影堂殿</small>	京の風苔て送る御蔭堂	湯治場は咄のかミの旅社	乗組の塵リも撰まし伊勢の海
全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全 <small>(ウ)</small>	全 <small>(79・オ)</small>	全	全	全	全 <small>(ウ)</small>	全 <small>(ウ)</small>
LA M	H	Y	R	B'	H	E	FA I	H	LA V	CA D	CA U	LA M	FA W	E	FA G	JA' K	CA U	LA V	FA G	CA D
あつ盛 <small>(濁ママ)</small> のそば切客や須 <small>ママ</small> 廣の寺	春の山こゝろも晴る花見烈 <small>(ママ)</small>	桃の日や大宮人に相枕	水くそふなひ道烈 <small>(ママ)</small> の下戸酒屋	月梅に鳴 <small>(濁ママ)</small> ども同じ句兄弟	一井戸水も交らす従弟村	君かため恥かしからし股の疵	月花に鳴明す夜やからす丸	おく横目たて目になって花軍	豊作のふしも静に月の船	菊酒の酔ひの龜相は露と消	陰言ハいさなし壺の月の宴	暮るゝ迄男女別なし花筵	女波男波隔なきさの貝拾ひ	打群れててられてなから夕顔見	節かけはなき竹馬の月の宴 <small>(濁ママ)</small>	冠屋も交ル桃李の花見酒	螢火をからす蹈消庵の友	哥好の庵に溜るや硯水	袈裟幾ツ桜の本問ふ西行忌	直リ化に障ル稲荷の通夜の膝
全	全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全	全	全	全	全	全
FA G	Y	FA I	LA M	A	R	B	LA V	N	R	Y	E	FA W	H	R	A	LA O	H	E	FA G	H
呉る、乳や水鶏に起て不肖なし <small>国分</small> 雅松	赤染の糸もん繕ふ哥の会	たらちねといつ撫子の小僧部屋	寺子屋は町の雀の粟畠	束 <small>ネ</small> てハ酌分れぬ川の枝	須摩の御所浪の枕にかり船 <small>カ、リ</small>	相書に面を反古の手習子 <small>杉、敷</small>	引つゝ御代は小杉 <small>枝、カ</small> の初子の日	骨折らすして御連子の金ふすま	一日の鳴に寄 <small>キ</small> や鐘の綱	花見からうすき氷も時津風	夢の夜の夢や修行の辻堂	花の色にこゝろもつかて嫩菜摘	齒固に梅の華かむ旅軍	千早振神のすかたと三輪の杉	隠れ家ハ目立ぬ菊の花見客	三代ハ我人共に夢しらす <small>キン山</small>	馬士諷も水には淀ム柳かけ	玉垂をかけ放たる競馬香	つきゝの客も重る亥の子餅	夕涼諸国の汗も流川
全	全	全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全 <small>(ウ)</small>	全	全	全	全	全	全	全	全

R	加茂川に酒も流るゝ夕涼	全	H	筆の海寒苦をひらく火燵の間	全	H	行秋の猶頼母しや月の友	雨杏
B'	初産に家も賑ふ名附時	全	H	汐ばなに廊下ふかせて安藝の月	全	B'	芦の穂は摘し継母の暖鳥	全(ウ)
B'	骨折て暑しのけと繪なし扇	池鯉	B'	冷ミ台浪の鞍の糸しらべ	全(ウ)	Q	取り楫に傾もせし船問屋	全
H	後妻子も一ツ枕に相火燵	全(ウ)	□	睨の日霞の幕もしほりあけ	如愚	CA S	僧正も卓子鍋の芋名月	全
レ	献立のよひわら屋のしっぽく軒	全	C'	打明て笑ミの口屋を桃李もの	全	CA D	菊酒や皆咲揃ふ和田一家	全
H	玉簾数寄屋の客に白屏風	山之口 一遊	E	陽炎を問イのふすまの桜狩	全	FA T	酢を舐る壺には意地の有物を	全
H	万歳も常盤の月や相火燵	全	H	しらぬ火を御垣の守や船の御遊	全	R	雪意根打崩したる嘶同士	全
B'	只見たし深あミ笠の二人烈	高城 全	レ	纓を取てしらせぬ夜の宴	清月(75・オ)	B	碁に暮て月に明石の友千鳥	阿久根 仙花
H	花幕を揚てひれふる桜鯛	高城 如流(73・オ)	H	遅ふ来た妹に姉の諸笑くぼ	清月	R	紅葉見に客も手鍋の酒の暖	全
H	名月や間イの襖の無世界	如流	レ	雲井より桜を尋て海老交り	全	Q	花見より皆道艸の競馬香	全
LA M	相部屋の鳥は人の名を鳴す	全	B'	浜萩や浜の香もなき野、遊ヒ	全	LA Z	竹植てさゝ汲かわす友雀	全
E	他人まて骨の和らく湯治木屋	全	CA D	待宵の褥八月も膝とひざ	全	LA O	舞謡ふ松の枝葉や賀の祝	全(ウ)
Y	簾越に桔梗かるかや女郎花	全	FA W	さつはりとした腹で碁争イ	全(ウ)	□	月花の是ぞ誠の友千鳥	全
H	月待の供屋もさへて松の琴	女牛(ウ)	FA I	水本を問へは同じき流の身	全	CA X	貫ふ娘其水筋の菖蒲にて	全
H	濁なき領と領との境井戸	全	E	淤泥にハ住家も見得す蓮同士	澗水	LA V	座配には平仄もなし今日の月	全
B'	澄ル夜や寐覚涼しき秋の月	澗水	LA V	松風の茶釜に通ふ暮の夜明	全	FA T	其客も根は一もとの菊の酒	全
H	来ル人に裏表なきたばこ店	全	H	角立し物も丸なる月の宴	全	CA X	月花と撫る布袋の子共好	全
B'	薫する孝に悪臭もなき女夫	全	FA W	まつ時も待るゝ伽もたばこ盆	全(76・オ)	H	面白やこの手柏の薪能	阿久根 雨杏
E	ことの葉を雲井に照らす月の宴	全	N	嵯峨住や更し朝の花筵	澗水	E	打揃ふ父子の如の竹林	全
LA P	相井戸に朝只の花笑ひ咲	高城 芦鴈(74・オ)	Y	通ひ来ル人は増井の清水客	全	LA P	取勝の欲のいが無栗拾ひ	全
B'	鎗の隙は硯の海の鯛鱈	全	E	言イ流ス紅葉の論や立田川	全	H	涼棚伽羅も芥も風薫ル	全

H	かきませて水に垢なき男伊達	全	E	着セ綿の重さもかるし千世の友	全	H	手を取て綱か女の子と笑われな	クリ野
CA D	雅斗泣ひて目出度家の春	全	E	あミ笠ハ世を隠家の一月寺	青瓢	H	匂ひ来ル夜の椿や袖の梅	全
CA D	はなの旅笑ひ盛を先に立	青瓢	CA U	弱もの、交りたのむ湯治同士	全	B'	夜半も聞馴染声や時鳥	全
Q	皆白し煙は厚き家つゝき	全	JA' BK	櫛つひて乳母の白髪も撫てやり	乳香	B'	地を堀て晴れ行友や須广の月	全
LA M	妾と妾沢迎を鴛鴦の二挺駕籠	全	CA X	吞せたる昔も今に乳兄弟	全	H	正直の峯より谷のさくら同士	全
LA V	哥の座は皆私の雲のうへ	花洞	LA V	国々の塵も積て山の寮	全	E	叶ふ封の御鬘や文の願成就	全
H	茅壁の暑さも涼し花扇	全	CA D	御子良子や千早振世の神心	文鳥	H	締ル手の双の翅や鴛の床	全
レ	交りハ竹にふしなき君子国	青木	JA' K	源氏香薫るの閨の哥かるた	文鳥	E	誠馴三年を千代の須广千鳥	全
E	数ならぬ身も月花に読出され	全	JA' HK	経の余力花によミ来ル桜本	全	LA P	鳥肌や丘隅に泊る火燵の間	全
H	方円の器に水の姫こゝろ	全	FA I	短冊の紅葉重ねや花の宴	全	FA W	明寺や居士も信士も蓮見酒	全
H	誘われて忠度となる桜見重	全	CA X	毛氈の半座を譲る蓮見寺	全	LA V	七賢ハ娑婆の政務をしらか同士	全
H	縁組の角も潰る、従弟村	全	CA D	向顔もよしの生の花うるし	全	FA T	生魚や布袋も笑ふ恵美須講	全
E	御伝授を咄せとはいなおふせ鳥	青瓢	FA G	浪に浮月夜は酒を思わする	全	LA Z	大かたハ桜に明す春の月	全
FA W	席書の普賢文珠に行司なし	全	CA U	舜の御代鳥も落穂を拾バ社	全	E	降らハふれ雨止ばやめ時鳥	全
JA' K	縮絃の宴に挽る、琵琶法師	全	E	参宮の七福人や布袋烈	全	Y	交りハ瓢の米を配りけり	全
JA' K	是まてとおもひ出丸の名残酒	全	E	打済て碁にはふしなき竹馬同士	全	Y	七賢の友や四睡の竹林	全
H	虫聞ハ宵から更て耳時雨	全	LA Z	泥池に染まて蓮見の君子達	全	Y	花蘭や志賀の連理の枝葉まで	全
E	澄渡ル四海三社の御詫宣	全	FA W	満ル代に御所は塩干の浜遊山	全	E	皆人も同じ流の歌々歌	全
E	押かけた酒の散込花戻り	全	FA G	乗込の船は諸国を積ませて	全	H	桜見やいつれを見ても紅葉かさ	全
FA T	月待の夜食ハ例の通客	全	LA M	ふき与に入てみよふかな琴稽古	全	B'	初只に契を込し妹背山	全
H	初雪や吟味のつもる酒の足袋	全	FA I	曳網の秋や雑魚ねの年忘	全	CA U	落着と年も二十の姫入艸	全

FA W	上下の駒建もなし琴の弟子	全	JA' K	大名も華見の座てハ柳すれ	桃林	E	若竹のふし立もせぬ花隣	全
H	鶴亀の蓬萊山や嫁姑	全	□	是からハ我名よばれて時鳥	全	LA Z	破垣や姑は夫と紫蘭貞	全
B'	立市に深山からすの羽を休	全	FA T	風形りに汲相住の柳井戸	杉水	□	仇風の吹ケとも嫁か糸柳	全
E	金堀ハ浮世の花の蒼にて	全	E	朝顔に酌取らせけり月の酒	無名	R	更ル程同じ蓮の風薫ル	全
H	跡問えば邦幾千里の戻り舟	全	CA S	法の道同じ蓮見の和尚達	全	E	跡先の濁リたになし村の井戸	全
LA Z	思ふ程隔のふすま押明て	嵐好	FA I	四ツ五器や揃ふ心の一ツ釜	全	FA I	約速の咲揃ひにし桃李蘭	全
B'	鉄銭も焼てハ金の二割増	全	Q	貝拾ふ友三神や和哥の浦	雨杏	CA X	四季の花一間に見るも和哥所	全
R	風になひく所帯ハふしの煙にて	嵐好	CA D	月涼し金生水の流れ船	全	JA' K	一幕ハ日野冷泉の二ッ頭	全
LA O	山吹の風に柳のうへを見す	全	H	酩酊も袴着せけり恵美須講	全	CA D	貧寺の馳走陰なき月今宵	全
H	弓手女手本心の矢のことし	全	H	酩酊にも袴着せけり恵美須講	全	CA S	門前に読経あつて養子	全
LA P	麻絹も蓬染屋の手にふれし	全	FA T	友すれの節ゆかミ無竹の奥	全	E	雨の日も曇ル只なし嫁姑	全
C'	芦綿に包こかねの寒からし	全	LA Z	茶の花に十徳匂ふ寒山寺	全	FA W	野駢とて竹馬遊びの轡虫	全
B'	御役人以上ハ床のかき治メ	全	Q	茶の友を釣や水魚の井戸茶筌	全	□	冷飯を送るもあつき借屋同士	全
CA U	姉妹折られぬ指の乳兄弟	全	LA M	三笑や虎溪の橋に出ル月	全	CA S	蓼売に鮮屋ハ辛ひ只見せず	全
E	血を分て一ッ所帯に暮けり	全	FA I	花に遊ぶ友ハ角無春の鹿	全	CA U	飛鳥井の交り涼し鞠の弟子	全
FA I	法類の角く涼し寺の月	全	LA P	花に散汁も繪も一ッ椀	全	FA I	参宮の間ハ道烈に他人なし	全
H	花聲かいつの間にや尉と姥	全	N	名月や座に不肖なる人も無	全	FA G	誘われて水にハなさし有馬の湯	全
B'	上下の事をむつましく庄屋役	全	FA W	十徳や互に襟も繕ハし	全	CA X	二親を本尊と拝ム寺隣	全
Y	角直す牛に怪我なし師兄弟	全	H	川狩りや同じ流の水魚にて	全	CA S	茸狩の音をきくらの隣耳	全
CA X	もの問へは答て無事の奏者番	全	H	賀の松に雛鳥込も揃イ鶴	全	R	二ッ神に酒ハ氏子の定神楽	全
LA V	太平の小桜威シちりもせず	全	Q	鞭もなき友や竹馬のさ、機嫌	全	LA V	傾城は長者のちりの煙出し	全

キンサン

其水

(64・オ)

キンサン

青瓢

花洞

全

青瓢

全

全

全

全

全

全

全

全

全

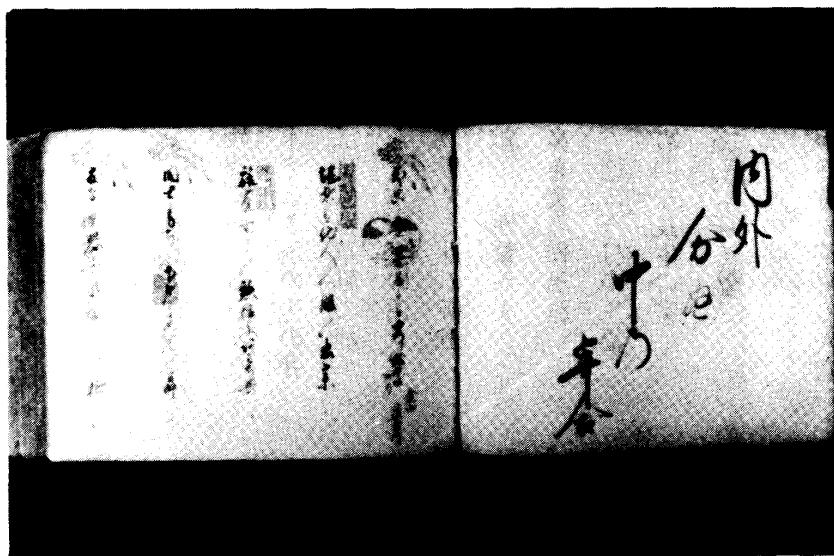
全

全

全

全

全



LA O 同士もちに下戸も花見の二日酔 全
 LA P 友達は器に水の川遊 全
 A 仇ならぬ風に戦や花薄 金山 全
 H 御暇も機嫌よしの、花日和 烏鵲 (55・オ) 全
 LA M 曲水の宴や他人に他人なし 全

R 殿は留主おくハかるたの哥日和 全
 LA V 五人烈かりかね組の女伊達 (ママ) 全 (ウ)
 摘比の茶を柴にして奥女中 全
 FA I やかて染道も白菌の雛遊び 青瓢
 Q 宿の道ハかわれど十夜講 (濁ママ) 全
 B' 花咲ハ諸家の親仁雲霞 全
 H 満汐に鳴戸を渡すか、り船 金山 全 (56・オ)
 B 茶の跡の寒苦を散す霰酒 文水
 Q 穂孕や夜は目に立稲のとの 全
 E 風になひく武士の煙や利たはこ 全
 H 塩焚の身ハ日晒と油煙染 全
 LA O たのまれつ頼も娑婆を放し庵 全 (ウ)
 たらちねに付添ふ孝の洗鯨 其水
 LA V 三千の弟子ハ咲とも華の本 全
 H 山吹の花瀬を配ル金山師 全
 LA P 月花や常さへ他人あられ酒 全
 H 半開の花に隙とる菊見寺 ツキ 全
 H 梅か香に持れて眠ル春の闇 金山 其水 (57・オ)
 N 八陳の沙汰も渚の月見酒 全
 A 更レども俣よ戸さ、ぬ御代なれば 全
 OL 蓮池や互に路の放れ庵 全

FA W 二人して摘とも見へし土筆 全 (ウ)
 CA X 赤人に田子のあたりをかし座敷 全
 CA U 時雨から相宿積ル雪の旅 全
 LA M 幾秋や契りを込メし比翼床 全
 CA D とちからから誘ふともなく夕涼 全
 H 胡摩の蠅夫と目尻の鞘走り 金山 全 (58・オ)
 LA V 制札に指か大事の私言 其水
 LA P 茸狩りに可笑かり寐の比翼床 全
 Q 三代の昔しを今にくらぶる代 (濁ママ) 全
 B 遠近の友も焦る、紅火燵 全
 Y 琴の音のしらべや竹のおく床し (濁ママ) 全 (ウ)
 CA D 向顔もよき三夫婦や屠蘇の酒 宮之城 軒梅
 FA G 水魚なる友や一河の流れにて 全
 E 雪見酒心も解て宵の月 全
 Y となり同士みな底済し新井川 全
 CA S 言かわす枕言葉の鴛養子 宮之城 九淵 (59・オ)
 LA O 交りハ風に柳の嫩姑 九淵
 LA M 桃の酒一枝の花や兄弟 全 白水
 CA U 入月の跡を比翼の鵜飼川 全
 E 山の守護心の儘の酒宴にて 全 蘭雨
 FA I あしの穂も出て和睦の真綿同士 踊 松木 (ウ)

全

所

全

全

全

全

言堂

全

全

全

全

西瓜

CA S	鹿も追々獵の口過	其三	E	長者の門に駕籠の立ッ市	全	R	八ッ目見たせし草鞋の紐	全
FA T	春の宮居と仰く末広	全	H	萩の香抜て玉の輿入	全	Q	腰も老せぬ長生の瀧	全
FA W	由来のななき鶴戸の引飴	全	Q	産出す甲斐の絹を織姫	全	B'	下戸の出丸や雛のよふかん	全
FA W	油断大敵防く朝起	全	E	玉簾深く入相の月	全	□	坂の寒苦をさけの摂待	全
LA M	軍慮かしこき千早ふる城	全	H	霞も靡く青柳の曲輪	全	CA X	身を鶴にして友を松嶋	全
LA V	月は欠れと事欠ぬ里	全	B'	檀金の膚浅艸の海苔	全	FA I	鳶の腹から出頭の鷹	全
FA W	嵐も問わぬ嵯峨の柿主	全	Y	こかね花咲陸奥の玉川	全	E	不時の煙となさぬ仲たち	全
Y	豊かにきくの花の色さと	全	R	高野に実のる弘法の粟	全	B	欲もしら毛を染る養老	全
H	鬼はいつちえ去り跡の娘	全	H	残ル耳にもかえぬき、腕	全	CA U	落葉かくまで厨と姥玉	全
FA I	楯つく跡は見へぬ茂り葉	全	E	身のために散ルこりね	全	FA G	岩清水から灑く世の塵	全
H	麓の道に玉の筋あり	全	H	ヒにてよりをかくる玉の緒	全	Y	腹切金子を関の鶏	全
FA W	甲に松あり萬歳の亀	全	LA O	錦に包ム龍田ひとり子	全	B'	代を刺捨て聞く庵室	全
B	四季の詠にもれぬ隠家	全	B'	寸クハン尺の沙汰のミにして	全	G	女房自慢もつらい厚皮	全
CA X	枝もならさす斧も音なし	全	E	大名になる百薬の長	全	LA Z	月の笑くほも半輪の穉	全
Y	まつにかひある鶴の巢籠	全	H	不慮の命を拾ふ落梅	全	R	發句も積て老のしら雪	全
FA I	身請の地盤すゑし血判	全	H	腰のはかねをきとふ湯の瀧	全	LA P	味噌すり坊も飢は先例	全
LA V	子安の貝を貰ふ産月	全	E	師の預りハ仇を打まで	全	H	時雨の亭と年をふる跡	全
LA O	旅の枕に金沢の月	全	LA M	蚊にもくわせぬ後家の独り子	全	FA W	穂に出てよし芦の着セ綿	全
LA Z	井戸のふなとハ湖水しら浪	全	N	雨夜の北斗焚火権現	全	E	関八州をかつら盆石	全
E	須弥の黒ミや不時のしら雪	全	Y	生簀に醒す井筒屋の酔	全	LA O	日枯田の面に雨の足音	全
R	花の台や玳瑁の床	全	H	あかしの月に下すおひ鶴	全	H	神慮ますく咲や姫宮	全

E	繪模様さへも富士の尊さ	全		E	はり一本て家の息才	全		B	香の煙の雲や霧嶋	全		(40・オ)
H	御垣の内は四季の花蘭	全	蘭志 (36・オ)	LA Z	真珠丸祖の守る大黒	全	金山	Q	雲の下着に笑ふ佐保姫	文二	金山	
E	千々のいつミや太ル貸シ金			H	柿の五助か繫く玉の緒	全	青瓢	E	愛子のわかれ頼む吉野路	全		
H	雲につらぬく三輪の神杉	全		LA P	熊野鳥に羽うつ誓文	全		R	不老の薬探す谷みね	全		
Y	浅熊に聞や御神楽の音	全		FA W	たんと戴くいわぬいろく	全		LA M	千紫萬紅洞庭の穂	全		
R	末世に運を照らす日光	全		R	鶴のはし／＼出ル賑石	全		B'	金堀の恋ふミ臼の音	全		(ウ)
CA S	田子の浦から一目千金	全	(ウ)	LA V	腰に千金さすがものゝふ	全	(ウ)	H	塩気も水に抜て目出鯛	全		
LA Z	魚の瀬習ふ峯の松か枝	全			往来に拾ふ賑の欠石	其水		FA G	誓ひに洩れぬ法の大峯	其水	全	
FA G	参銭のふる雨の宮守り	全		Y	南円堂から古哥の薄雲	全		H	砕場に挫く暁の夢	全		
FA T	風かもて来ル玉簾の文	白雪	鹿兒ノヤヒ	FA T	夢にミつから開く高野寺	全		JA K	鬼門の非常守る上加茂	全		
N	ちりを拂ふて敷嶋の道	全		LA M	暮雪のすかたみつ海の比良	全		R	起證の罪も免すよし原	全	キンサン	(41・オ)
Y	千代の味あり菊の下露	全		H	春の余波に衣干てふ	全		CA X	時に幸ひ君のかくれ家	其水		
H	古巢にきおふ孫か鷺流	白雪	鹿ノ屋 (37・オ)	FA I	白浪風も立ぬかよひ路	全	金山	FA T	神代のすかたミする茅茨	全		
FA W	もとめ繪嶋や月の出屋敷	全	(ウ)	CA D	御たねのやとる部屋の透腹	全	鳥鵲	LA P	神も吉田を上京の宿	全		
LA V	老の小春にさくや子の花	全		Y	子から親うむ曲輪の身の代	全		FA W	扶桑の闇もあけの玉垣	全		
LA M	我に程よき五湖の釣舟	全		E	家毎の鏡錆も田畑	全		H	大和めぐりに延ル腰折レ	全		(ウ)
B	若挾の鯛を貰ふかミ置	全	鹿兒シマ	H	客の氣を取茶屋の猫玉	全	(ウ)	LA O	明日の錦を的に弓取	全		
CA S	相者か嫁に貰ふ福熾	全	金山		内侍所と胸を指さす	全		H	塵からつもる高岡の紙	全		
B	野火を治めて守る一振り	全		B'	繪てさえ高ねするかなる程	全		E	田子のうらみは下戸の道烈	全		
Y	家を潤す独子の富	全		FA W	我を忘れてなかも宮嶋	全		E	伏見たつ代に薫る桃蘭	全		
								B'	ついた餅よりこゝろ勿論	全		(42・オ)

FA I	幾代か求喰つるのはし立	全	FA I	内外わくる千木の片そき	国分	Y	都の辰己しかも住ム庵	同	全
LA V	薬種の利生ふかき大和路	全	LA M	竹の蘭生に雪折もせず	全	FA T	金子のつるにつくや身の皮膚	心笑	全
N	御茶挽あくる宇治の川霧	全	H	情の積ル金沢の雪	全	LA V	天の毎の照らす神識	心笑	全
JA YK	目にたち続くもミや梅の尾	全	R	内縁の地に根とる錦木	全	Y	命をのべの庵に月花	心笑	全
FA W	互にそれと幾とせの桃	金山 文志 (30・オ)	H	茶の湯にひ、く宇治川の音	国分 雅松 (32・オ)	FA W	配剤替て薬堀ル庵	全	全
FA T	木の間を拝む杉のしめ縄	全	LA V	醍醐の桜に百薬の長	全	LA V	岩戸開て国の父母	全	全
H	臥龍のミかは道の友鶴	全	B	姫路の城は月の黛ミ	全	N	迷針建て順な日の本	全	全
R	御乳の清水に国の潤ひ	全	E	軍のよふな商売の知恵	全	R	録に這付嫁か青鳶	全	全
B'	朝間にタントつもる萬金	全	Q	下馬先薰ル加賀の梅鉢	全	E	頼一樹は慈悲のいろは本	全	全
H	弓矢挽継つる亀の孫	全	E	そもく見えしあその神木	全	H	絶かくる代にはゆる若竹	全	全
B'	我閑白と雪の埋木	全	H	人參に逢ふけふの茸狩	全	H	新田満る稲のゆふ浪	全	全
B'	矢走の船の翦ぬかけの	全	CA U	金の出水ハ富の水ナ上ミ	全	Q	市に堀出す五郎入道	全	全
B'	名所見む迎乗らぬ難船	全	CA S	蛙も飛ぬ油ふる池	全	Y	日本一や籠の唐やき	全	全
H	彼仙人も見ゆる隠れ家	全	H	月雪花に事も加賀笠	全	LA P	ひとり娘にかゝるいとナミ	全	全
H	苔のむす子か祝ふ誕生	金山 古月 (31・オ)	H	心にかの、床の雲龍	全	H	富士より高き床の盆石	全	全
E	霞の戸さす伊達の大木戸	全	E	金の露こふ花の菊酒	全	E	有馬の湯から妻の乳黒ミ	全	全
Y	直き八幡につる、弓竹	全	LA O	飼屋か下に揃ふ生イ鶴	全	H	楓の色を写す白無垢	全	全
Q	親子相もつ慈非の愛憐	全	LA Z	其名も消ぬ雪の笋ナ	全	B'	瓜実子植し加賀の花蘭	全	全
B'	散りく諷ふはなの雪酒	全	LA V	一トとせの内三度生る栗	全	H	人はおもんじ仰く身の徳	全	全
H	ひく汐もなし琵琶の満月	全	CA D	若代を照す補佐の明月	全	E	金の穂を摘ム鞍馬桜の芽	全	全
				西の御丸に植し姫百合	全		高野八日々に金の芥溜	全	全

E	国	の梢も青む松竹	阿久根	雨杏	CA U	三輪の鳥居は村の礎	横川	全	(ウ)	N	身上茂ル松の作り瀬	全	青瓢	(28・オ)
CA D	我	か庵漏ぬ頼む木の本	全	(ウ)	B'	油断から打陳滄の道	乳香	全	(ウ)	FA W	金子も和泉の客に濡合ふ	全	山嵐	
E	世	の霜よけや伊勢の神垣	雨杏	全	H	甘露を結ぶ仙領の瀧	全			E	人に隠して雪の椎茸	全	全	
H	渡	世の宛や掛る釣船	全		B'	養老泉は年のはみかき	全			Y	唐津に船の着や抜ヶ買	全	全	
B'	民	の煙も厚く俵炭	全		H	紅錦繡や仙洞の庭	全			FA T	親里までも薫る丁子屋	全	全	
CA U	我	か住軒は四季の花鳥	全		FA G	那智の高根で拾ふ如意輪	全			CA U	伊吹は人の魂の緒の主	全	全	
CA S	今	日の命を貢茸狩	阿久根	全	FA I	霧か嶋かと鉾の一滴	金山	全	(26・オ)	CA S	扶桑の金の根とる日光	全	全	
LA Z	城	の新地に続く水勢	仙花	全	B'	大地を燈す爪の火衣	蘆風	全		CA X	子飼の鶴に茂ル松葉屋	全	全	
FA W	高	ねにふける松の鳥足	全		FA V	神地の杉を祢宜にたまもの	全			Y	人ハしら洲に黒鶴の畏	全	全	
FA	芳	野の茶屋ハ桜の名で立	全		LA V	出雲の小春神の塵溜	全			CA X	衣紋倒れぬ加賀絹の客	全	全	
E	利	生新なふるの神杉	全	陪輔	LA Z	星の手引や鎌倉の道	全	(ウ)		LA P	よし野、花は茶屋の蓬菜	全	全	
LA V	難	波に開く百済の梅	全	(ウ)	H	金が尻もつ庭の築嶋	全			LA M	狛師もこけし草茎のかね	全	全	
CA X	穴	かしこくも照らす玉垣	全		R	花の都やみよし野、おく	全			CA U	除夜の捨かね拾ふ元朝	全	全	
E	直	成針で釣揚し国	全		H	普月の窓に雪の燈	全			E	四百余州を釣針にかけ	全	全	
Y	嶋	台よりハ献上の台	全		B'	利生の青は神垣の森	全			N	竹林で堀ル金色の釜	全	全	
R	浦	嶋人の夢の通ひ路	全		FA W	紫雲たなひく八葉の峯	金山	全	(27・オ)	Y	金比良に漕帆柱の願	全	全	
E	世	に流合金の源	全	雨杏	FA G	四季の花咲金の鍵先	松月	全		FA W	燐の君に貰ふ化粧田	全	全	
FA W	後	佛の光り差杉	阿久根	雨杏	E	蓬萊飾ル亀の浮嶋	全			H	八重九重に匂ふ嶋原	全	全	
H	心	の修甫や庵の鹿の音	全		LA O	小倉の錦御幸またなん	青瓢	全		CA D	峠に切れぬ水の玉の緒	全	全	
B'	家	の立根の太ル肉桂	全		Q	金てまはゆき日光の空	全			B	法皇もはむ嵯峨の端隠	全	全	
H	門	トも一樹の花の蔭さす	全		LA V	高野を覗く珠数の玉だれ	全	(ウ)		H	客の鼻毛を見拔手取屋	全	全	

H	野遊 <small>コビ</small> の媚花の前節	クリ野	文角	B'	ほのくに行野、萩の浪	全	R	参銭のふる清水の雨	全
H	曲輪にまい夜の狸々の限り		全	H	かんはつに見る富士の白干	全	Q	左り孕ハ国の蓬萊	全
B'	世を直針に掛る釣り舟		全	B'	月の笑只や国主の孫	池鯉 <small>全</small>	R	皆瘡瘡ハ住吉の松	全
B'	築羽根の峯落ル初ッ恋		全	A	目も覚るなにわの黒葛柄	全	Q	人しらすして沖の鯉瀬	全
B'	名の夜の酒ハ治世の長月		全	H	富士を吞たる夢の一口	全	LAM	国の香ふくむ藤の姫百合	全
H	身請に駕籠の鳥も飛立		全	B'	千尋の浪もおよく帆柱	遊之 <small>全</small>	H	みかきすませよ筆の跡取り	全
E	一間をメて寐酒三ツ四ツ		全	B'	雪のおとし子朝の晴富士	全	LAO	風雅に富ル庵の春秋	全
B'	賤の内裏や茅壁の雛		全	B'	菊酒を吞て花咲乳母恩	全	E	心苦の見得ぬ梅村の里	全
B'	難波の華も出る隠れ家		全	LA P	五常を人の子におしへ艸	高城 如流 <small>全</small>	E	三輪 <small>を</small> の恵に茂ル若杉	高城 清月 <small>全</small>
CA X	小町か代から尽ぬ小野炭	山田	如柳 <small>全</small>	FA I	左りの部屋に国を構へて	高城 如流 <small>全</small>	B'	涛を凌 <small>ヒ</small> て千町の森	高城 清月 <small>全</small>
Y	千金よりハ重キ一文字	山田	如柳 <small>全</small>	H	柴火に解ル雪の松か枝	全	LA V	桐の林は鳳凰の閨	全
LA O	伐程富る土佐の材木		全	FA W	嫁か乳に付く釜の黒さび	全	H	御代に背かぬ松の緑子	全
H	国に油のたれし斧音	全	半扇	Y	床やミ照らすたちからの舞	全	H	嵐の友に列る、谷水	全
H	雨のそれ行旅の日光		全	B'	浮世を渡ル筆の竹橋	女牛 <small>全</small>	E	雪の冠や庵室の松	全
LA P	末摘花に露をくれつ、		全	FA T	轉ぶ片手に起す盆石	全	E	反哺の埒慈愛こぼる、	全
H	文字もしら毛の筆に夜明し		全	FA G	老を勇むる孫の水葦	澗水 <small>全</small>	H	桐の林に鶴の御教書	全
B'	一人の徳を世にもしらせん		全	E	京て見馴し唐の腸	全	H	寒苦の見得ぬ十月の梅	全
LA M	百艸なめて救ふ萬民	松山	存外	LA Z	御狩の跡に孕む姫百合	全	B'	霧を被 <small>カッケ</small> ける米穀の峯	高城 澗水 <small>全</small>
B'	神守 <small>キ</small> の梢や代々の風除		全	H	奴か左りに実ル乳黒ミ	高城 蘆鴈 <small>全</small>	FA G	根にはさわらぬ家の家部分	高城 澗水 <small>全</small>
H	忠に叶今八幡店	山ノ口	月林 <small>全</small>	FA W	金の宿かる石の旅込屋	全	H	慈鳥も休ム長浜の森	全
H	留主の乳黒に貰ふ水かね	山ノ口	月林 <small>全</small>	LA P	八幡に武運長久の竹	全	B'	御代形にする庭の建石	全

FA I	金に巢籠ル 鶴の背音	全	FA G	浅間て拾ふ印籠の富士	全	H	兄弟竹に世をハ譲る身	金山
E	金を引出す木曾の材木	全	FA W	手想に見へし公の筋	全	B	黒ミし稻の果もしら川	青瓢
E	仏法 <small>(マ)</small> の鳴釈迦ヶ嶽	金山 全 (11・オ)	LA Z	富士の生簀や田子の海原	全	FA W	種子を苔ミし御所の撫子	横川 乳香
LA M	長者の髭の塵りを取聲	全	JA K	寄木の伽羅にかゝる釣り舟	全	N	こかね花咲陸奥の富士	全
JA K	不老不死きな菊水の谷	全	LA P	月の名所て拾ふ盆石	全	FA G	佐渡に横とふあら金のつる	全
LA O	日月遅し仙境の洞	全	R	金堀うとふ御代の春風	全	JA K	六十帖に残ル言の葉	全
B	鶴の埒に千代を重ねて	全	H	千里行野も腰の一瓢	全	JA K	神慮曇らぬ月のかつらき	二番勝 金山
H	金の暮雪の積ル比良の屋	全	H	諸国の油燈す吉原	全	Y	身を釣揚て人に隠し瀬	全
FA I	神のみはへや葦原の出穂	全	B	舌に巻込金の鵜遣イ	全	B	筑波の峯ハ哥の塵溜	全
H	白旗苔ム僧正ヶ谷	全	Q	化粧田まで実ル花姫	全	E	妹背の橋に笑ふ三人	全
LA V	我を忘れて富士見西行	全	LA Z	四季の花咲植木屋の庭	全	Q	見あけ見卸す三輪の帆柱	金山 青瓢
CA X	かねゆりうたの佐渡に横とふ	全	FA G	百草の外温泉の瀧	全	H	金屋にたまる国々の鏝	全
E	小判しつめて浮む亀石	金山 青瓢 全 (12・オ)	JA K	月日うなつく須弥の腮 <small>ラトカイ</small>	全	LA P	長崎丸ム阿蘭陀のふね	全
CA X	日光に堀ル江戸の尻穴	全	LA V	霊地を守る杉の神木	全	LA V	賤か塩木も御所の柴船	全
H	関守の目もくらむ黄金	全	JA K	氷室頂く水無月の富士	全	FA I	老木の松に鶴のみどり子 <small>(濁マ)</small>	全
E	濡れてもうれしかんはつの雨	全	FA W	見立もぬるし大峯のきり	全	E	幾廻つゝく拝領のすき	全
B	水ものにほし鳥に入月	全	N	さとのりの外や住ぬ天台	全	LA M	箱根の関は江戸鍋のふた	全
H	つるも栄し金子瓜畑	全	FA W	雪の着セ綿衣笠の城	全	E	あやめが沢に出る清水 <small>(濁マ)</small>	全
E	湯浴なる代にすめる湯治場	全	H	霞ふり込上爛の門	全	H	秋田のふきにあかね旅人	全
Q	繪に写されぬ松嶋の景	全	LA P	日の光にて照らす代のやミ	全	H	伽羅にもあかん閨の移リ香	栗野 文角
H	田楽帆にもあかね川口	全	FA G	九重までも匂ふ撫子	全			全

R	からし立込そふめんの瀧	全		JA'K	照 ^ル 日の本や天の逆鋒	全 ^{四番勝}		E	扱もと斗花のみよし野	全	梅子
LA Z	寒苦忘れし美濃の谷くミ	全		E	富士に煙りの絶る間もなし	全		LA M	身に磨得し玉は朽せず	全	
E	旭の登 ^ル 龍の瀧坪	全		B'	雲上人も伊勢の神風	全		N	茯苓に世を掘起す金子	全 ^{阿久根}	
FA I	龍田の錦三室から織 ^ル	全	六勝	Y	四十八字を産出の峯	全		CA X	畳のうへに生立梅檀	全 ^{阿久根}	梅子
H	高き屋舗も賑ひの市	全	金山	CA D	矢立の水に駕をかき居 ^へ	全	踊	CA U	曲輪の福引蓬萊の露	全	
Q	七賢人も落合の谷	全	其水	LA P	八幡の人は掛 ^ル 竹の子	全	盛木	H	代々茂 ^ル 杉の弥高	全	
LA O	井筒の音に通ふ酔醒	全		H	かねを吹出す玉嶋の綿	全		LA Z	苔の巖にこかね花咲	全	春湖
B'	芦の葉蔭に敵そよつく	全		H	金子のつるに親の掛り子	全		E	富士の芙蓉ハ我朝の花	全 ^ウ	
FA G	千里一目に覗く絶頂	全		CA S	壽は南海に亀の浮嶋	全	全	CA S	金子のなる木や土佐の材木	全	
H	実にや安楽夏の夜の月	全		LA Z	船の安全径の鳴かけ	全		LA V	八幡は国の目釘竹なり	全	
N	諸国に漆花もミよし野	全	宮之城	LA O	天地にたつた玉のひとり子	全		CA U	人武に響く金の弦音	全	
LA M	富士の如くに俵の八重形 ^リ	全	軒梅	E	こかね花咲よし田屋の軒	全		FA W	金平出合ふ木曾の炭竈	全	雨杏
H	人の衰微もたつ昇竿	全		R	賑石に舞ふ鶴の一鶯	全	横川	FA T	渡世の手に葉茂 ^ル 椎茸	全	
B'	市をなす人かミも賑ひ	全		B'	金関白に穴の皇帝 ^{シキ}	全	横川	JA K	舟木に柚の浮ふ瀬もあり	全	雨杏
CA U	金子花咲神のまに ^く	全	全	B	去り迎は又芽立桐の葉	全	嵐好	FA T	鳩の古巢は御代の隠家	全	
FA W	堀出す金子ハ光りさす親	全	宮之城	FA W	国の乳房や金の産衣	全	嵐好	FA G	伽羅の煙に譲る新屋	全	
B	手つからひらく筆の勢 ^イ	全	白水	E	最初の峯に千振ふる神	全		E	まつしきも有庵の月花	全	無名
E	子共仕立て家の戸柱	全		LA V	富士の高根は雪の晒場	全	阿久根	Y	夏の浄土や風の蓮池	全	杉水
LA O	我国なから尊 ^ト かりける	全	蘭雨	H	孝の堀出す光り有釜	全	柳笙	H	三井に我名を鐘に問わる、	全	
Y	心す、しくみおの松風	全	松木	Y	実のる樹木は家々の花	全		B'	其名高雄の光 ^ル 親玉	全	桃林
H	ちゑのちり積かうしやくの海	全		LA V	世帯上へ見ぬ驚の拾ひ羽	全		FA W	月雪見よりいつれ子の花	全	其水

〔文化十亥年鷺松点雜俳集〕

主

青瓢

吉田
昌章

青瓢

(印記)

扉
(1・オ)

見返し

表紙

二ツなき

宝の山は

是ならん

H 佛の面と撫ておくかた

Y 御作事の外指も差留

FA G 随喜のなミた今にふる寺

E 恵も絶ぬ露の岡崎

金山

清書堂

(ウ)

全

全

全



LA M 鹿嶋の神にむすぶ内縁
(濁ママ)

LA P 娘独りを撫子のはな
(ヒトリ)

FA I 酒盗人といふて御吉野

E 忍にもきせぬ法師我が庵
(恩カ)

R うさを忘れて釣の糸なミ

金山

烏鵲

全
(2・オ)

全

全

全

LA V 年ふる雪のつきぬ黒髪

H 門の暖簾に薫る髪風
(杜)

FA K 牡丹の茶屋に居続の獅子

FA I 醉摩の瀬に実ル花嫩

H 世の憂露も白菊の主

E 鏡餅はな光る軒並

H 苔のむす子か祝ふ誕生

CA U 世を涼しむる論言の汗

LA M 敷嶋の道立し八重垣

E 行義見習ふ師匠八巻

Q 昼の重荷も夜ハ善光

FA T 神慮ますく通夜の曙

E 燕の巢まで揃ふ新宅

FA W 谷の口からふくむ紅梅

H 月の倂拾ふ亀石

B 見しや夫とも和哥の平産

H 火宅の延る老の気の皺

FA T 三枝の礼や鳩の峯入

CA D 千尋の谷に続く帆柱

E 鵜飼船さへ浮む瀬の魚

LA P 澄める御代とて井戸の久かた

金山

其水
(4・オ)

全
(ウ)

全

全

全

全

全

全

全

全
其水
(ウ)

全

全

全

金山
文水
(3・オ)

全

全

全

全
青瓢

全

全
(ウ)

翻刻

凡例

本文は、原文を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便をはかるため左の要領に従った。

(1) 文字はおおむね現行通用のものに改めた。しかし当時慣用の嶋・只・艸・鴈・尸・躰・哥・娘・迄・爰・广など、わずかながら異体字・略字体を用いたものもある。

(2) 清濁・仮名遣いは原本通りである。

(3) あきらかに誤りと思われる部分には(ママ)、宛字には()内に正しい文字を記し脇に付した。

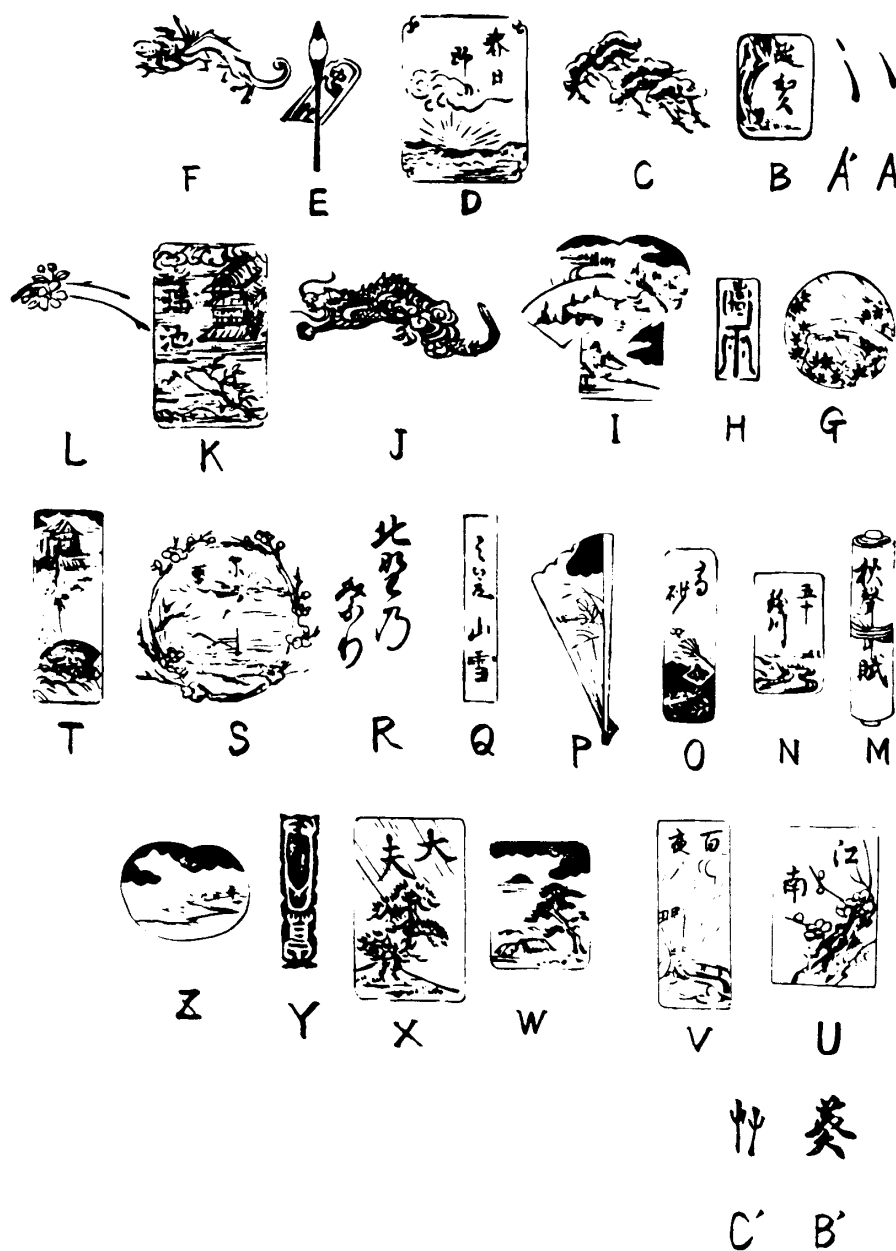
(4) ミセケチ訂正は、ミセケチを左に、訂正文字を右に統一して記した。本文の左に記されたルビ・書き入れは右に移した。

(5) 丁付は(1才)・(ウ)のように簡略にした。

(6) 本文が擦れて判読困難な箇所は とした。

(7) 鈎点・印点については、下に示すように模写図を作り、ABC……の記号で句の上に記した。鈎点A、A'は墨、他の印点はすべて朱である。

鈎点・印点図



られるものである。卷末の「清書堂籬庵 青瓢／亥神無月烏／乳香雅丈」とある識語は、これが清書堂青瓢から横川の乳香に贈られたこと乃至は贈らるべくして書かれたことを意味している。ただし「右青瓢方ニ貫置なり云々」の添書きは、何らかの事情があつて青瓢のもとに乳香からこれを貰つて置いたというのである。

本書には、また大小方円二十余种のさまざまな点印が用いられている。これは先に紹介した『船親父』『続船親父』のそれと全く一致している。『船親父』などの点者は定かでなかったが、これから考えると鷺松の可能性が大きいように思われる。それから本雜俳作者の経歴など多く不明であるが、国分の雅松は、『其みちのく』の編者雅松と同一人とすれば、国分の商人林織右衛門ということになる。林雅松は浪花の尺艾や江戸の成美とも風交を持った俳人である。こうした俳人が地方の雜俳作者として前句付などを楽しんでいるということは、また甚だ興味のあることである。

終りに種々御好意をお寄せいただいた西口裕吉氏並びに早淵肅氏に深謝申し上げる次第である（大内）。

〔横川〕嵐好、乳香。

〔阿久根〕柳笙、梅子、春湖、雨杏、仙花、陪輔。

〔鹿兒島〕無名、杉水、桃林。

〔栗野〕文角。

〔山田〕如柳、半扇。

〔松山〕存外。

〔山之口〕月林、池鯉、遊之、一遊。

〔高城〕如流、女牛、洞水、蘆鴈、如愚、清月。

〔国分〕雅松、嵐巴、清水、自笑、心笑、雲雀、嵐志、杉月、葛龍、佳州、路水。

〔鹿ノ屋〕白雪、一鳳。

などである。清書堂と青瓢は同一人で、一緒にしてよいと思うが、本集では作者名として別に書かれているのでそのままとした。以上の六四人の作者が、一つの前句題に多い場合は二〇句も付句を出しているのである。ところで、それぞれの前句題の勝句は、朱書によると、
その一

（巻頭） 六十帖に残ル言の葉

乳香

（二番勝） 神慮曇らぬ月のかつらき

文鳥

（三番勝） 氷室頂く水無月の富士

青瓢

（四番勝） 照ル日の本や天の逆鋒

奇山

（五番勝） かねゆりうたの佐渡に横とふ

青瓢

（六番勝） 竜田の錦三室から織ル

其水

その二

（巻首） 御子良子や千早振世の御心

乳香

（二番勝） 源氏香薫るの閨の哥かるた

文鳥

（三番勝） 是まてとおもひ出丸の名残酒

青瓢

（四番勝） もの問へは答て無事の奏者番

奇山

（五番勝） 貧寺の馳走陰なき月今宵

青瓢

その三

（巻頭） 糸脉を取つく軒や蜘蛛の縁

乳香

（二番勝） 旅前の灰や三里に居目貫

文鳥

（三番勝） 梅か香を風か昇来る娥入加籠

青瓢

（四番勝） 勝ときハ味方か京の関角力

奇山

卷末の合計点によると、三つの前句題の付句を合わせて五百九十点を得た乳香が第一位である。

この雑俳集の催し主で世話人をつとめたのは、清書堂である籬庵青瓢である。そして青瓢が清書した本書に引点付墨を加えたのが鷺松である。鷺松は文化十年に七十二歳であることのほか、通称その他全く不明である。なお、本書には鷺松の署名のあとに「亥菊月鳥」と記しているが、この亥年は卷末の「文化十乙亥年清書云々」から見て同年のこととして考えてよいと思われる。つまり本雑俳集は文化十年に催されて成ったものである。そして、この清書の巻は当然一位を得たものに賞品として贈

雜俳集『文化十亥年鷺松点雜俳集』

——南九州の国文学関係資料(十二)——

解 説

○『文化十亥年鷺松点雜俳集』

横本・写一冊(隼人町 早淵^{ススム}肅氏藏)

本集は昨年国分市の西口裕吉氏が見つけ出されて、筆者のところへ原本を持参されたものである。初めに例によって書誌的なことを記すことにする。袋綴じ、横本一冊、たて一八・六センチ、よこ二六・五センチ。字高一六・一センチ、一丁片面五句書き。本文墨付一六二丁、表紙・裏表紙として共紙各一丁を用いており全一六四丁。表紙見返しに「主青瓢」と墨書、扉おもてに「吉田昌章」「青瓢」の朱印、巻末に「右青瓢方ニ貫置なり、文化十乙亥年清書、安政六己未年迄四十五年」の墨書があつて、本集の作者の一人で、かつ清書所であつた吉田青瓢の旧蔵書であつたことが知られる。吉田家は薩摩山ヶ野金山住の町人であり、桐原忠利

橋口 晋作
福井 迪子
大内 初夫

氏の「山ヶ野金山三百年史」(『山ヶ野』昭和四十八年刊)によると、その祖先が、島津義弘が関ヶ原役に敗退して薩摩下りの折に、種々便宜を計つてお役に立ったためとして、苗字帯刀を許されて知遇されたという家柄である。また現蔵者の早淵氏の祖先も同様な家柄であり、かつ吉田家とは縁戚関係があり、そうしたことから本書は、吉田本家から出て早淵氏の蔵に帰するところとなったものという。

さて、本集は題名がどこにも記されていない。よつて「文化十亥年鷺松点雜俳集」と仮題することにする。内容は「二つなき宝の山は是ならん」「内外分ぬ中の寄合」「勇ミ社すれく」の三つの前句題に應じて出句された雜俳集である。出句者は薩摩・大隅の人々であつて、

〔金山〕清書堂、烏鵲、青瓢、文水、其水、花洞、青木、文鳥、蘆風、松月、山嵐、文志、古月、文二、其三、雲萍、不楽、青蘭、仙庵。

〔宮之城〕軒梅、九洲、白水、蘭雨。

〔踊〕松木、奇山、盛木、頭雪。